●図書紹介●

『学校経営の基礎・基本』

牧　昌見著

教育経営学の世界で長らくリーダー的な役割を担い続け，また，日本学校教育学会でも理事等の重責を担われてきた牧昌見会員によって，『学校経営の基礎・基本』と題する一書がまとめられた（1998年12月10日発行）。

昨年の中央教育審議会の答申「今後の地方教育行政の在り方について」（9月21日）においては，周知のように「学校の自主性・自律性の確立」が課題として提起されている（第3章　学校の自主性・自律性の確立について）。このような改革動向を捉え，著者は，「各学校がアカウンタビリティ（説明・応答責任）の精神に基づき，保護者や地域住民との連携・協力を深めながら子どもたちの健やかな成長を支援することに努めなければならない」と指摘する。そして本書は，「21世紀の教育において学校経営の果たす役割の重大さを自覚しつつ，学校経営の基礎・基本について可能なかぎり分かりやすく解説」することを意図してまとめられたものである。

本書は，次のように9章で構成されている。Ⅰ学校の役割と学校経営，Ⅱ学校組織と学校経営，Ⅲ学校経営と経営参加，Ⅳ専門職組織としての学校，Ⅴ学校経営と校長，教頭の役割，Ⅵ学校経営と主任の役割，Ⅶ憲法・教育基本法と学校・教師，Ⅷ教育経営関連用語の整理，Ⅸ新しい教育課題と学校経営。

「基礎・基本」というと，初歩的な事項が述べられているというイメージを持ちやすい。しかし，初歩的な内容というよりは，学校経営に関するこれまでの数々の著作を踏まえて，学校経営に関して，これだけは理解しておいてほしいと著者が考えている要点がコンパクトにまとめられているので，「学校経営の要諦」というほうがピッタリするようにも思

われる。このような内容の著作物は，『学校経営と校長の役割』『学校経営と教頭の役割』『演習・学校の組織と運営』など数々の研究成果を世に問われてきた著者にして可能になるのであって，個別的あるいは各論的研究の範囲にとどまっている研究者にはまとめることができない。その意味では，コンパクトながらこの1冊はわが国の教育経営や学校経営の研究世界で常にパイオニア的役割を果たされてきた著者にして初めてまとめることのできた高著である。

学校経営の実践上の有力な指針として有益であるばかりではない。この世界（領域）の研究を志している者としては，本書に学び，かつ本書を超える対象として精読に努めたい。

（上越教育大学　若井　彌一）

●教育開発研究所，A5判，193頁，2,000円（本体）